

第三十九回 高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式



高円宮妃殿下から古川圓さんに高円宮杯が授与された



高円宮妃殿下との記念撮影（左から吉川英夫大会委員長、加藤東陽審査部長、高円宮賞・古川圓さん、高円宮妃殿下、高村正彦大会会長、川端達夫大会副会長）

今春にマスク着用の自由化の他、政府の新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針が廃止されたため、授賞式・展覧会ではマスクを外して参加する来場者が多くなり、コロナ禍以前の雰囲気に戻りつつある中で授賞式・展覧会は行われた。

高円宮妃殿下ご臨席の下、第39回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式は、8月26日（土）、東京・千代田区の日本武道館において、盛大に開催された。
授賞式では、毛筆の部1万4765点、硬筆の部7429点の合計2万2194点の出品作品から選ばれた特別賞、優秀・優良団体賞の表彰が行われた。

展覧会には約900名が来場。授賞式には受賞者、関係者ら約600名が出席し、多数の来場者で会場は賑わった。

授賞式では、高円宮賞受賞者の古川圓さん（佐賀県・県立武雄高等学校2年）を含む各特別賞受賞者260名、24団体（当日欠席者含む）が表彰された。

◇展覧会

展覧会は高円宮賞をはじめ、内閣総理大臣賞、日本武道館大賞、衆議院議長賞、参議院議長賞など特別賞受賞作品260点（毛筆173点・硬筆87点）並びに本誌手本揮毫の先生方による特別出品作品（21点）が展示され、午前10時の開場と同時に多くの観覧者が来場した。

高円宮妃殿下は、12時20分頃にご到着。高村正彦大会会長（日本武道館会長）の先導で展覧会場へと向かわれ、最初に高円宮賞の作品をご鑑賞された。高円宮賞受賞者の古川さんに親しくお言葉を掛けられた後に記念撮影を行い、その後も各賞受賞者との記念写真撮影に応じられ和やかな雰囲気の中、作品をご鑑賞された。



大滝一登 文部科学省
初等中等教育視学官



川端達夫 大会副会長・
日本武道館理事長



高村正彦 大会会長・
日本武道館会長



高円宮妃殿下



保護者等関係者が多数来場した

◇授賞式

授賞式は高円宮妃殿下ご臨席の下、午後1時から開始された。

はじめに、高村大会会長が主催者挨拶に立ち、「高円宮妃殿下のご臨席の栄を賜り、第39回高円宮杯日本武道館書写書道大展覽会が盛大に開催されますことは、主催者として、大きな慶びであります。この展覽会は、昭和60年に第1回が開催され、我が国の書道展で唯一の高円宮杯を戴いております。本年で第39回を迎え、昨年の第38回から会場を日本武道館に移して、開催することとなりました。改め



壇上の受賞者に大きな拍手が送られた

まして、栄えある各賞を受賞された皆さん、この度は誠にめでとうございます」と述べた。

続いて、高円宮妃殿下から、「書道は、わが国の長い歴史の中で洗練され、日本を代表する伝統文化として発展してまいりました。今日では、多くの国民に愛好され、海外でも高い評価を得て、人々の心に喜びや感動を与える重要な文化活動となっています。心を込めた筆づかいで、ひとつひとつの言葉を丁寧に書き上げていく書活動の中から、自ずと豊かな人間性が養われ、日本人としての自覚と誇りが



授賞式終了後も退館を惜しみ記念撮影

が高まってまいります。本日、数多くの作品の中から厳正な審査を経て、栄えある高円宮賞を受賞された古川圓様をはじめ、受賞者の皆様、まことにめでとうございます。これからも、日本の伝統文化を学習しているという誇りを胸に、ますますのご精進を期待いたします」とお言葉をいただいた。

次に、永岡桂子文部科学大臣の祝辞を大滝一登文部科学省初等中等教育局視学官が代読し、「書写・書道は我が国が誇るべき伝統文化の一つです。文字を正しく整えて書く力を育み、その力を学習や

生活の中で役立てる態度を育てる重要な学習であります。本展覧会には、児童生徒や学生のみなさんの素晴らしい作品が数多く出品されたと伺っております。それはひとえに、みなさんの日々の努力と研鑽の賜物に他ならず、我が国の書写・書道の水準を一層向上させることに寄与するものです。今後もみなさんが、書写・書道を通して、感性を高め、想像力や自らを表現する力を一層伸ばしつつ、自らの可能性を最大限に発揮することを願うとともに、社会の創り手として、輝かしい未来を切り開いていくことを心から期待しています」と読み上げた。

表彰式では、最初に高村大会会長から高円宮賞受賞者の古川さんに賞状が、妃殿下からは高円宮杯がそれぞれ手渡され、会場からは大きな拍手が沸き起こった。引き続き内閣総理大臣賞をはじめとする各賞の表彰に移り、最後に団体賞の表彰が行われた。

すべての表彰後、加藤東陽審査部長から、「全国各地から多数ご出品をいただきありがとうございます。全体を通して、毛筆、硬筆ともに、僅かな差で入賞を逃した作品が数多くありました。次回展でも素晴らしい作品が出品されますことを期待いたします」と講評を述べた。

続いて、受賞者を代表して高円宮賞受賞者の古川さんが、謝辞を述べた（詳細は23頁）。

最後に、吉川英夫大会委員長（日本武道館常任理事・事務局長）が、「長時間の式典でも、私語も無く他の受賞者を称

える姿勢が大変素晴らしいと思います。武道、書道に共通する『道』という文化の普及と奨励にさらに取り組んでいただければ日本武道館としてこの上なく嬉しく思います」と閉会の辞を述べ、授賞式は盛会の裡に終了した。



厳肅な雰囲気の中で授賞式が開催された



展覧会会場に多くの来場者が訪れた

高円宮杯第三十九回展受賞者代表謝辞（全文）



佐賀県立武雄高等学校二年

古川 圓



受賞者を代表して古川さんが謝辞を読み上げ、吉川常任理事・事務局長に手渡した

受賞者を代表いたしましたし、一言御礼の言葉を申し上げます。本日ここに表彰の栄を賜りましては、受賞者一同身に余る光栄であり、心より感謝申し上げます。この度、高円宮賞をいただき喜びの気持ちでいっぱいです。顧問の先生から伝えていただいたとき、嬉しさと驚きで思わず涙が出てきました。同時に、これまで書道が続けさせてくれた両親に深く感謝しています。小学校一年生のときから家の近くの書道教室に通い始め、字を書く事の楽しさを知りました。そのときから、今までずっと墨の香りと程よい緊張感に包まれた環境で筆を持つことが大好きです。私にとって書に向かう時間は自分の心を知る時間であり今の私の生活には欠かせません。昨年、新しい古典の臨書に挑戦しようと思、曹全碑の臨書を始めました。初めは隸書特有の波磔に苦戦しましたが、練習を重ねるうちに、その伸びやかで気持ちのよい書に引き込まれていきました。礼器碑を書き始めてからは、この書を書いた人のことに思いを巡らせながら臨書に取り組みました。見ている私が爽やかな気持ちになるような書を書かれた作者の方は、どんな性格でどのような思いをこの書に込めたのか、そのようなことを考えるのも書道の楽しさの一つだと私は思います。

この度、賞をいただいた礼器碑は「見た人が

爽やかな気持ちになるように」という思いを込めました。私にとって礼器碑の爽やかさは、毎日通う武雄高校の森の中に居るような澄んだ美しい空気のイメージが重なりました。音も、色も、香りもない半紙の上で、それをどう見せることができるか深く考え、私なりに文字の研究をして書いたこの作品から、その空気感を感じていただけると嬉しいです。

これまでたくさんの方々から恵まれて私は書道が続ける事が出来ています。その全ての方が私にくださった経験と感謝の気持ちを心に留め、表情豊かな字を書いていきたいです。私にとって書道は自分の心を映す鏡です。書道での課題は、普段の生活の中での課題でもあります。自分と向き合いながら書を書き、書で表現して、見た人の心を動かす作品を書けるようにこれからも努力を重ねます。

最後になりますが、大会を開催していただいた審査員の先生方、関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、受賞者代表として御礼の言葉とさせていただきます。

令和五年八月二十六日

受賞者代表

佐賀県立武雄高等学校二年

古川 圓